

讚美歌21 479

1 喜びは 主のうちに、愛するイエスよ。
苦しみの きわみにも 恵みは豊か。

主の望み 置くものは とこしえの生命うけ、
救われる、ハレルヤ。
生きる時、死ぬ時にも 主イエスから 離すもの
何もない、ハレルヤ。

2
世も悪も 罪も死も 主に支配され、
苦しみを 喜びに かえてくださる。

われらみな、この時に 高らかに 主をたたえ、
声あわせ、ハレルヤ。
主を愛し、主をあがめ、 喜びの 声あげる、
心から、ハレルヤ。

EG 398 In dir ist Freude T: Cyriakus Schneegass
M: Giovanni G. Gastoldi (Geistlich Erfurt)

1) **In dir ist Freude** /in allem Leide,/o du süßer Jesu Christ!/
Durch dich wir haben/ himmlische Gaben, /du **der wahre Heiland**
bist;/

hilfest von Schanden, /rettest von Banden. / Wer dir vertrauet, /hat
wohl gebaut, / wird ewig bleiben. /Halleluja.

Zu deiner Güte /steht unser G'müte, / an dir wir kleben /im Tod und
Leben;

nichts kann uns scheiden. /Halleluja.

2) Wenn wir dich haben, /kann uns nicht schaden / Teufel, Welt, Sünd
oder Tod;/ du hast's in Händen, / **kannst alles wenden**, / wie nur
heißen mag die Not./

Drum wir dich ehren, /**dein Lob vermehren** / mit hellem Schalle,
freuen uns alle
zu dieser Stunde. / Halleluja.

Wir jubilieren und triumphieren, / lieben und loben / dein Macht dort
droben /

mit Herz und Munde. / Halleluja.

mit Herz und Munde. / Halleluja.

マタイ5:8 「心の清い者は幸いです。その人たちは、神をみるからです。」(新改訳版)

今世紀になって、政治やジャーナリズム、さらには、サイエンスの世界ですら、何が真実で何が虚偽 (fact or fake) が混乱した精神状態が日常化するようになりました。私はこれを異常だと感じ、次の世代への影響をもっと心配しています。そもそも、人間は真実を完全に把握する能力はないはずなので、人間による証明は、確率的であったり、相対的であるにすぎません。このため、真実(神様)を真剣に求める心が、失われることが危惧されるのです。

例えば、新型コロナウイルスは、全ての人にとってのリスクであるといわれます。同時に、そのリスクの程度は、経済力や就労、社会階層や公衆衛生のレベルにより、大きな格差が生じていることが、欧米のデータでわかってきました。日本では、疫学的データを経済学的に解析する作業は、いまだ始まったばかりです。真実を知ることができないまま、私たちは人を恐れ自分も不安のとりこになり、行動は消極的なまま、他人との間に壁を作ろうとしはじめるのはみじめです。

日常生活でも、私たちは、真実を、より適確で柔軟の表現しようとする努力をしなくなり、荒っぽい言葉は、セミ(蝉)のぬけがらのように、実体からはなれてしまいます。私たちは、本当の意味はわかっていないのに、大人は全てわかっているかのように仮面をかぶって生きているのです。

本日読んでいる「山上の説教」では、この世での「祝福の逆説」が語られます。まさに、この「逆説」を理解することを通じて、私たちの感受性が回復され、世界で起きつつある真実がみえるようになると思われまます。私たちは、聖書の「逆説」から多くを学ばねばいけないはずです。実は、世界は、「逆説」で満ちているからです。

「山上の説教」は、二つの福音書に出てきます。ルカによる福音書では神様に祝福される人々と、のろわれる人々が、対比で語られています。これに対し、マタイによる福音書では、イエス様が、この説教で人々に何を約束されたかを明らかにするため、明らかに解釈が加えられています。(次のページを参照してください)

対称表 山上の説教(「祝福の逆説」をめぐって)

ルカによる福音書6章

20 イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話された。「貧しい者は幸いです。神の国はあなたがたのものだから。

21 いま飢えている者は幸いです。やがてあなたがたは満ち足りるから。いま泣く者は幸いです。やがてあなたがたは笑うから。

22 人の子のため、人々があなたがたを憎むとき、あなたがたを除名し、辱め、あなたがたの名をあしざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。

23 その日には喜びなさい、おどり上がって喜びなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。彼らの父祖たちも、預言者たちに同じことをしたのです。

24 しかし、あなたがた富む者は哀れです。慰めをすでに受けているから。

25 いま食べ飽きているあなたがたは哀れです。やがて飢えるようになるから。いま笑うあなたがたは哀れです。やがて悲しみ泣くようになるから。……」

マタイによる福音書5章

3 心の※貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

6 義に※飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。……」

イエス様が村や町を回って語られるうちに、群衆が集まってきました。おそらく「山上の説教」の場面では、群衆の前に弟子たちをたたせ、イエス様が、使徒たちの働きについて語られたのではないのでしょうか。そういう状況を思い浮かべることができます。

ルカによる福音書の6章では、「いま」ここで「飢えている」者が祝福され、富んでいる者が呪われ、「いま」ここで「泣いている」者が祝福され、「笑っている」者が呪われているのです。これに対し、マタイによる福音書(5~7章)の著者が、「山上の説教」に含まれる「逆説」を、なんとか解釈しようとした形跡がみられます。「心の貧しい者」又は「義に渴いている者」ということばに言い換えられた部分こそ、その痕跡です。

イエス様は人々が貧困であること自体が良いことだと言われてはいません。衣食に欠けた状態が好ましいとも言われていません。そのような誤解から、脱出しなければなりません。そのような人々が、まだ存在しない新たな世界を求めているから、祝福されているのです。イエス様が、「富める者はますます富み、持たない者は、持っているものまで奪われる」とも語られたように、人間社会の深刻な経済的及び社会的な格差を認識することは、イエス様の福音を理解する前提です。イエス様は、優れた社会学者であったということを知るべきです。

同時に、祝福の逆説は、どん底の生活にある人々、社会のなかで差別され、誹謗され、「負け組」のレッテルを張られる人たちの魂を祝福します。そのような希望のもとに、社会はかろうじて、分裂から救われているのでしょう。どんなに失敗し、敗北し、社会の不条理な仕打ちにあっても、私たちの魂は慰められ平安な心をあたえられ、自分を愛してくださる存在に感謝できるからです。

そして、「心の清い者は幸いです。その人たちは、神をみるからです。」という言葉には、神様が働いてくださることへの希望が語られています。現状を固定することなく、困難と真剣に向き合って、新たな世界を切り拓くよう日々生きることが勧められているのです。